

第二章

船舶部隊の編制(或)補充、素質、

教育訓練、

部隊の特性

(補充)

第一節 編制(或)に就て

第一款 概説

抑々部隊の編成教育等は作戦に先行すべし其原則は

(各艦の必要に依りて) (原団の必要に依りて)

他の船舶部隊の編成に内する限り他の一般地上部隊に

比し支那軍支令は戦術を通じて遂にその原則を

(と言ふも過言でない)

官銃すも事おあまふ 後手後手に終始すべし 即ち

戦域は予期するに據りしより常に輸送 上陸作戦に

長遠な海路

兵站輸送の途随を總討に必要とす 従つて船舶部隊の

編成は一般地上部隊の如く年毎動員計画命令等に據るを

(判) 各種各様の部隊が其の部隊に於て

要し 備は必要に依りて 輸送 上陸作戦に

せられねばなる即ち

臨時動員 補給部隊 作戦の必要に即ちせざるを

(内合せの物と見做し)

取扱ふ人 必要に依りて 備はし 作戦に

附

船舶残務整理部

戦後一ヶ月後、これを軍令化する旨の辭あり。此は
 戦後一ヶ月に
 止むを得ないやり方であったのである。直後直ちに
 備せられた北支那の海軍部及びカイロをカイロの砲台司令
 部がこの旨の辭の初めであり、此後この旨の見えるは、初め
 海軍上の欠陥の補綴の人事整理、留守業務整理等々多
 の不仕事を招来し、事は甚だしく事案である
 日本が四海に海を巡る海軍のありか、わが海軍の
 海軍の戦後一ヶ月に於ける心構えありしは、陸軍の自衛に於て
 少くも陸軍の目的とするは、海軍の自衛の目的及び
 は考へられ準備せられて居る旨であった。米軍の海軍隊
 の如き素直に此の旨を持つ船舶の改修が、結構せられて
 ある旨の事であり、又戦後補綴の見地より、少くも今般戦争初期
 より船舶の動員は、補綴の体系を確立して置くべき
 今更なる
 ありし旨の事あり

第二章 支那事変

船舶残務整理部

作戦の進展に依り船舶輸送体系強化の必要に迫

られ陸軍運輸部は多数の人員を増加配属せられ

陸軍初より以来最初の軍令系統船舶指図を標榜して

一日陸軍運輸部と二位一体となり第一船舶輸送司令官を

の編成を見 此支に取敢つて軍路を命に據り編成

した此支隊の協同部一及数個の 砲台司令部

を激進し輸送体系の強化を第一としたる

而して支那事変に於ては終始敵の空中及水上勢力を無

と云ふことも特異であつたし且沿岸防備も亦見るべき

しうか無かつたため船舶部隊としての使命は全く大型船

の輸送を主とした従つて各現輸送機内編成と共に

中一船舶的輸送司令官の

陸軍輸送部の運航監督のため海軍監督指図部又

輸送船自衛隊及び輸送船備砲隊及船舶高射砲隊

而して一部上陸作戦のため 艦隊二五師隊

支那事変の
直後

支那事変の
休戦相
の南東地

初期修繕
押印編成
内附性

船舶残務整理部

船舶輸送強化特に輸送効程發揮のため新にカ、才二
 場陸軍司令部及才一院海防監部の臨時編成を見るとき
 更に才三十二以上才七に及び院海防司令部をばおめとし幸と
 一々各師団水上陸上輸卒隊を改編編隊する要ありと水上陸
 上建築各勤務中隊等二十五を増設せられたるものあり
 又才三司令部
 而して船舶高射砲隊、船舶通信隊、船舶工廠隊、病院
 船衛と班等増設せられたるものあり
 倉庫も持て居る事は論俟ず
 之の如く在るが船舶輸送司令部を中分して
 逐次補充せられたるものあり(特に)
 支那事変末期に急激に膨脹し各種各様の任務
 を有する船舶部隊が未だ確固たる教育体系も整はず
 泡が起ると人及物両面に亘る
 備に担担中隊、大艇隊等の飛躍的拡張に準備も無く
 雑然たるま、非常事態に突入しこのあり
 第三款 今次戦争
 昭和六年十一月の急ぎ今迄戦争に勃発するや、支那事変末
 期急激に膨脹し、之の船舶部隊の余力を與へて

船舶の状況
ミッドウェイ
の戦い
は、
艦隊

船舶残務整理部

マレー半島上陸作戦、シブカキ山敵前上陸と緒戦は勿
論相踏ぐ作戦に

船舶部隊の活躍は実に目覚ましいものがあった

而して各地に広がる作戦効果を表出し戦域は萬里の域

海を越えて拡がり作戦に兵站に船舶部隊無しとは

一とて動かし難く固つたものがある

活躍の場面も

戦域は逐次拡大し行くと船舶部隊の任務も急激

に増大した。然し今次戦争初期迄は順風を帆とし

て攻勢作戦が敵の悔、並に勢力の微弱にして而も

我海軍力の熾然たるを反映し

海軍の力

※ 8頁中由より続く

（全船中）

（船名）

而して初期に於ける編成上の一巨劃は昭和十七年七月

末船舶輸送司令部の編制改正拡張による船舶司

令部の創設以下各種船舶部隊の拡充である

（各隊の任務要項に志す）

即ち、船舶戦隊部隊の総帥として船舶兵団司令部

（過渡的）

及びその轄下部隊として揚陸司令部を若干編

成し、船舶司令部、船舶司令部、船舶司令部及び独立工兵隊

をそれぞれ変更にし、船舶工兵隊の編成である

（各隊に指す）

又船舶輸送處理体系を確立し、船舶輸送計画の

立案及實施は、海軍省海運基地（海運地）に於ける軍需省

の揚揚實施及び指導、港場に於ける給水給食給油の監督

實施、船舶掩蔽及保護基地整備等の任務を有する第一

乃至第三船舶輸送司令部が、上海、青島、天津

船七七に於ける船名

船舶兵団司令部
船舶司令部
船舶司令部
司令部等
一船成

第一第三
船舶輸送
司令部等
一船成

中期

11

船舶残務整理部

戦争進展と中期に至るや作戦は遺憾なく攻勢力より

守勢に轉じし^{のがあるか}戦果遂に對する船舶部隊の

重要性と共に加はり臨時編成に^{臨時}て編成をせし更に^{は寧ろ}此の躍

的膨脹を来^惟し^たる第一線の華々しい戦果にのみ

心を奪はれ兵站を輕視したあらわれである特^に海軍に於て

る船舶準備の重要性を此の期に至り全軍漸く認識する

に至つたのである。即ち敵の海軍勢力の強圧により船舶

作戦態相に變化を来^{先昭和十一年末より二十一年初頭迄}し船舶戦術部隊たる才三才四

船舶司令部及才八乃至才十一船舶工兵隊等ははたしめ才一線

に於ける穩妥分散輸送の^{機帆船魚船}を以て編成せる才一

乃至才七海上輸送部隊の出現を見且輸送体系強化のため

才三才四船舶輸送司令部が設置せられ所在支部を統轄

するに才四乃至才七揚陸隊が編成せられた^{増加}而して此の期

に特等才一才二は昭和十一年三月十七日船舶練習部が創設

機帆船魚船
海上輸送
大隊の編成

船舶練習部
の創設

せられ他兵種より轉科將校の勅育、且習七省、幹部候補生、
特種

下七省候補者勅育を以て施すると共に船舶兵の作戦戰鬥形式

の研究、船舶作戦用兵器資料の研究整備を行ふ

事になつて從來迄難然として何等の施策も無かつたの擧げ面

に一新紀元を劃したるに於て、昭和十九年未練下に船舶

幹部候補生隊を加へ數千の生徒を擁して幹部の教育

に支移を如くしたのである

昭和十九年六月にはヤマト船舶輸送司令部管轄区域

内にありし多数の旋渦司令部を基幹に佛印支隊をばじめ

本支隊、馬來、爪哇、ビルマ、セガ、パプアニューギニア等の支隊十三ヶが

改編せられ九月には、船舶司令部が天皇直轄

機関となり、船舶司令部が中將と親補せられる事になつ

たのである、而して同時に野次船舶本廠が編成せられ船舶

兵站の總本山として、最も旅社

モノ岐な面も

船舶司令部
天皇直轄
特種
野次船舶本
廠の創設

而して其の要なる任務を帯びて華々しく発足したるものがある

(野戦)

當時既に活躍して居た多くの船舶廠同支廠、船舶工廠

野戦

船舶資材廠同支廠等は皆この轉下に入り、これに船舶兵站

(漸く)

の体系が確立したるがある 又南方作戦地域に分散し

(高谷)

且消耗多し、船舶兵站の補給を月増するものあり、船舶兵

第一野戦補給隊が次第に北の方面にあり

(一九四一年初頭に於て)

如く昭和二十年一月末船舶兵站は更に一段の擴張を以て即ち

二月には北方輸送強化のため、五隊に十五船舶輸送司令部

(同時に)

が編成設置せられ、船舶兵五隊、十三乃至十九聯隊、第十二乃至第十

(海上輸送第七大隊)

五揚陸隊が增加した。而して更に南方海域に展開する船舶兵

戦相相を深刻に反映して、かゝる準備を進め、即ちSS、SB、高速輸送

艦力口艦等

(一艦中隊の編制)

漸く戦力化する運搬に至り、機動輸送力一乃至十五中隊及

(三艦中隊)

上を統率する機動輸送隊本部並に高速輸送力二大隊、海上

(中)

駆逐力一大隊(五艦中隊)が主たるものである

時機とは運搬

(何れとも)

船舶兵五隊
野戦補給隊
の創設

SS、SB等
特殊艦隊
隊の創設

船舶工兵及
船舶特務艦
部隊補充
隊の編成

昭和十九年
五月六日迄

末期

船舶兵
兵団司令部
の編成

14. 即ち
海軍の海軍力力の急激に
船舶残務整理部
に任じたためにも、

もつと早く少くも十七年中には出来上つてゐたらと思ふべきであらう

ある 又此の時機に漸くにして船舶工兵九聯隊補充隊、船舶運

信隊補充隊、機動輸送補充隊、海上駆逐隊補充隊がこれ

である

昭和十九年 五月六日の候、二十三船舶団をばちの船舶工兵第

二〇乃至二六聯隊、海上輸送中八乃至一〇大隊、独立海上輸送中八乃至

中五中隊、第五八乃至六三砲台司令部及船舶通信中一

乃至中三各隊が編成せられた

この敵の攻勢遂に比島に及ぶ昭和十九年末 即ち今迄戦争

末期に至り初め、動員、教育補充体系の確立強化を目標

とし前身たる船舶兵団司令部要員の大部を充てし待機

の態勢船舶兵団司令部が編成せられた 既設各補充隊を統率

すると共に同時に編成せられた 船舶特別幹部候補生隊をその

隷下に不支那事変開始以来 動員補充体系の整はぬま

船舶残務整理部

無闇に生れれば消え消えれば生れれば一途に膨脹を重ぬる
後難極まる船舶兵の母体が劃然と成立し遲れ馳せなが

(精練せしむ)

りお役立つ軍紀厳正な部隊の成長が約束せられたるが
あるこれと同時に當時膨大なる人員を擁し船団護衛

に船舶自衛に將又港湾防空に敵機、敵艦に対抗し活
躍しつる船舶砲兵団係部隊の最高司令部として船舶砲

船舶砲兵
司令部
船舶砲兵
司令部
船舶砲兵
司令部

兵団司令部が編成せらるゝと共に船舶砲兵部隊幹部の
養成並に戦技の向上習技の研究充進のため船舶砲兵

(船舶の)

教導隊、対潜、対空警戒のため既に假編成せしむるに
船団隊を基幹として船舶情報隊が出来るものがある

又揚格効程發揮即ち短切揚格の必要にせまらる特設

勤務隊百三十中隊以下百五十五中隊に及ぶ二四個の特設

(船舶兵站強化のため)

水上勤務中隊及第四乃至第七野戦船舶廠同支廠が編成
せられた

に全船舶力を傾注、して本土陸戦に備へつ、

（船舶機動）
基地を鋭意設定せしむる一方速かなる軍令化

及大陸命に據る編合を上申し申し終戦となつた

（此の期に終戦下）
而して敵B29及艦載機の襲撃に下港（海）防空、船舶保

衛のため船舶機動死守に三聯隊の軍令化をはりめんと

船舶情報研習を主体として各種機雷掃海隊、機雷監視

隊、防空氣球隊等の編成、茲に船舶兵站強化のため

カ九五艦カ十一野戰船舶廠同者支廠、移動修理班等

も急進に編成せられりあつた

陸軍

最後に陸軍の船舶部隊として特筆するべき事がある敵の激進なる海空

勢力圏内に於て離島補給輸送のため研究（本親）の潜航輸送艇及び

関係部隊の事である即ち昭和十八年（昭和十八年）船舶司令部の特設

艇要を以てしたる増加配属を受け本隊（本親）三島に潜水

輸送艇も隊が軍隊に合して創設せられ爾後各種の用途と

排除（本親）艇の建造に伴ひ比島に仲電にカ一乃至カ三の建造隊、

（本親）方面にカ四の建造隊が創設せられ各方面に（本親）を重なる人命

（本親）方面にカ四の建造隊が創設せられ各方面に（本親）を重なる人命

隊の成果を見るに及んで潜水輸送大（中）隊を潜水輸送補充隊の軍令

化を上申したるがあるが成果の僅少であると特筆性斯く軍令に鑑み

更に研究を急務とする時待て待て（本親）隊に軍令化せらるることなく軍隊命令のまま終戦となつた

潜水輸送艇の創設と
潜水隊の活躍

今迄の戦中
に於ける補給
の概況

今迄の戦中 に於ける船 部隊の幹部 及兵の補充は	既述の如く昭和十九年末に至り、敵首脳的兵團司令部を	総帥との勤務補充体系が確立し、その下にあるが幹部	は当初他兵種より強制轉科し、を完り達成せるの後	は、 船部隊の即応性	補給の即応性	補給の即応性	補給の即応性
-----------------------------------	---------------------------	--------------------------	-------------------------	---------------	--------	--------	--------

1096

今迄の戦中、敵首脳的兵團司令部を
 既述の如く昭和十九年末に至り、敵首脳的兵團司令部を
 総帥との勤務補充体系が確立し、その下にあるが幹部
 は当初他兵種より強制轉科し、を完り達成せるの後
 は、船部隊の即応性
 補給の即応性
 補給の即応性
 補給の即応性

18

船舶残務整理部

加出するに及んじ全国より

(比較的)

船舶兵と特定徴募区と持てる南洋上

素直優等なものか繰々集められた又一般兵の補充は

各補充隊へ全回(各地)より入隊の上実施せられ

内隊

又内地部隊への補充は直接各補充隊より各部隊に送られたい

(南方)

あるが今次戦争中期に至りや一線船舶部隊に対する補充

は在比島船舶兵や一野に補充隊より送られたいある 即ち

内地より船舶兵を送る事未敢て兵を直接該補充隊に輸送し

該所に送るの上各一線部隊に補充してある

1097